



泗水小だより



泗水小学校
学校だより No27
文責 芹川博文
11月17日(金)

学校教育目標 「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

「近い将来、被爆した人が0になる日が来る」
～ 修学旅行で受け取った平和のバトン ～



「近い将来被爆をした人が0になる日が来る。でも、0になったから終わりにしていいものではない。平和のバトンをみんなが家族へ、学校のみんなへ届けてほしい。」

「戦争をしない近道は、みんなが友達を大切にすること。」

長崎の地で、6年生に託されたバトンがあります。上の言葉は、被爆体験講話をしてくださった八木道子さんが語られた言葉です。八木さんは被爆当時6才。あれから78年たった現在、泗水小6年生は、長崎の地で八木さんの思いを受け継ぎました。

下は、話を聞いた6年生の言葉です。

「たった一発の原子爆弾で長崎の3分の1が犠牲になったから、平和はとてもこわれやすく当たり前でないことを知った。だからこそ、平和について学ぶことは大切なのだと分かった。」

私自身、どこかで戦争は「過去のこと」と考えていた部分がありました。昨今の世界情勢の中で、スマートフォンを片手に銃を持つ兵士や、ドローンでの攻撃、そして、その中を逃げ惑う人々が映し出される映像に、認識の甘さを突きつけられます。

上の感想のとおり、「平和」も「日常」も、当たり前ではありません。八木さんの思いを受け、6年生は新たな歩みを始めたところです。

おばあちゃんへの思い 全国へ
～ 発明工夫展 KKT 賞、全国出品へ ～

モップ付きそうじ機



おばあちゃんが掃除機をかけた後、雑巾がけをしていて大変そうだったので、同時にできるものを作ろうと思った。

「必要は、発明の母」という言葉があります。ましてや身近な人を大切に思う気持ちから考えた「発明」となると、ほっこり温まります。

今回、熊本県発明工夫展で KKT 賞を受賞した平井 統士郎 さん(6年)の作品が、県代表として「全日本学生児童発明くふう展」に申し込まれることになりました。

どんな工夫があるかというところ・・・

- ・お掃除ワイパーのヘッド部分に、雑巾をセットする。
- ・スイッチを入れると、モヘヤシールをつけた棒が回転してゴミを集める。
- ・素材がプラスチックと段ボールなので、軽くて丈夫。
- ・持ち手がついていることで、雑巾がけも立ったままで、腰にやさしい。
- ・接続部分が磁石で取り外しでき、集めたゴミが捨てやすい。
- ・モヘヤシールを貼っているのが音がたたく、ほこりなど小さなゴミも逃さない。 など

話によると、これまでも色々な「発明」作品があるとか。クリエイティブ(創造的)な発想で作品が生まれ、誰かの笑顔につながる・・・。見方一つで、日常生活の中には様々な「新たな発見」のヒントが潜んでいるのかもしれないね。

体力をつけよう！ ランランタイム ～ 11月25日(土) 持久走大会に向けて ～

「走る楽しさを知ること。そして、苦しい時、自分と向き合うこと。」

上の言葉は、体育主任の内藤先生に、「持久走大会、ランランタイムに向けた体育主任の思いは」と、尋ねた時に即答で返ってきた言葉です。

私は長距離も苦手でした。心の中で歌を歌いながらリズムをとったり、当時話題だった瀬古選手の走り方を真似したりして、色々試したことを懐かしく思い出します。そして今、決して速くはありませんが、子どもたちと昼休みのランランタイムで走るのを楽しんでいます。

